時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

明治廿八年十二月十三日金曜日（甲午）
舊曆乙未十月廿七日
日出午前六時四十三分　日入午後四時二十七分
月出午前三時十九分　月入午後一時四十五分
滿潮午前一時五十一分　滿潮午後二時二十四分
（西曆一千八百九十五年）
年始より三百四十七日　年末まで十八日

時事新報

中途にして面倒を他に分つ可らず

近頃朝鮮の事を論ずるもの多きが中には宜しく隣强と妥協して此問題を定む可しと云ふものなきに非ず紛々擾々として歸する所なき其近狀を見て速に結末を附けんことを思ふは無理ならざれども日本國民の朝鮮に對する希望は既に一定して動かす可らず即ち其民を導き其國を開て獨立の實を得せしめ我れは唯永く商賣貿易の利を利せんとするものにして戰爭の目的も一に此に存したることなれども文明の素なく立國の資に乏しき國民を育てゝ一人前のものと爲さんには氣を長くして效を永遠に期せざる可らず藥物を食はんと欲する者は先づ苗を植ゑ肥料を與へ雜草を除き暴風に備へ以て時節の到來を待つ甚だ待ち遠くして堪ふ可らざるが如くなれども辛抱せざれば望を達す可らず朝鮮の事も亦斯くの如くにして之をして美菓を結ばしむるまでには蟲害內より發して幹を倒さんとすることもある可く暴風外より吹き來りて枝を折らんとすることもある可し其暴風を防ぎ蟲害を除き以て成長を助くる其間の面倒は一方ならざれども辛抱して時節を待つの外なし然るに今隣强と妥協して事を定む可しと云ふが如きは恰も園丁が折角培養の半に屈托して他人に勞を分たんとするものに異ならず誠に短氣なる沙汰にして日本國民の本意に非ざる可し英國は埃及より佛國を排斥して自から勢力を張りたれども固より之を略して自國の所領と定めたるに非ず是に於て埃及問題なるもの屢ば歐洲の外交社會に喋々せられて甚だ面倒なるが如くなれども英國は一切頓着せず孜々經營、他日の成功を期するのみにして苟にも他國と妥協して問題を定む可しなど因循姑息の色を示したることなし我の朝鮮に對するも亦此筆法に從ひ急がず倦まず徐々に誘導開發するの外なし其法は一切平穩を主義として唯交通を便利にし彼我の人民相親むの間に自然に我文物に感化せしむるの策を講ず可きのみ彼の瀆職規則を嚴にして往來を限るが如きは一時の處置として必要なきに非ざる可しと雖も固より長久の策に非ず又彼の歲計の不足の如き如何にして補充す可き歟、信用もなき貧弱國に向て每度大金を貸すは固より好ましからぬ次第なれども彼の財政の窮迫、今日みれに金を貸さずと云ふは取りも直さず其自滅を傍觀するに異ならず小供の敎育には自から資金を要す朝鮮國の敎育は疑なくも我日本國の任ずる所と爲り彼の邪怪なる後見人の手より引き離したる上は新後見人に於て多少の錢を貸すも亦已むを得ざる義務なる可し兎に角に半途にして他國に面倒を分たんと云ふが如き意氣地なき考を起すことなく老婆が孫を世話する如く氣長に親切に敎育して初めの目的を達せんこと我輩の望む所なり

雜報

○京城特報

王城第二の事變

京城十一月廿八日午前　前田生報

王妃の復位、關係者處分の大英斷を施して過般來の紛擾を一掃し漸く善後策の端緒を開きたりと喜びしことも束の間にて更に復た王城內に

第二の事變

を生じたることそ氣の毒なる次第なれ抑も事の起因は果して那邊に存するや未だ之を審かにすること能はざれども變に平壤の第三訓練隊長たりし李道徹と云へるものは親衞第二大隊中の舊侍衞隊に屬する將校兵士及び舊兵の浮浪者等を集め今朝午前一時過東北の春生門及び北方の北牆門より亂入し闕を犯さんとせり是れより先き彼等は宮城內に宿衞せる將校兵士とも豫じめ內應の約束を爲せしものと見えその門外に達するや合圖とも思はるゝ銃聲三發を放ちたり然れども城內の兵士等は尙は寂として一向內應すべくも見えざりしかば彼等は漸く其計られたることを悟り頗る躊躇したるも騎虎の勢ひ如何とも爲し難く遂に春生門の扉を開きて亂入せんとせり然れども門扉堅く鎖して到底入る事を得ず茲に於てか主魁李道徹、親衞隊中隊長南萬里、李奎泓及び金春權等率先して障壁を乘超え兵士十數名之に次ぐ壁下一名の巡檢あり之を認めて亂徒を支へんとす兇徒等直に之を斬りて無難に壁下に下る折柄、警衞の兵士數名之を見て抗せんとせしも暴徒の勢頗る强くして當るべからず急ぎ走りて之を宿衞本部に告ぐ、本部に於ては兼て內應の約束を受けし位なれば斯るべしと待ち設け其準備整ひ居りし故直に號令を發して亂徒を襲撃せしむ亂徒はその內應の約を履まざるのみか却て計略に陷りたるを悔み大に狼狽したる其機に乘じて宿衞兵は一齊に突貫して門外に出で亂徒を襲撃す亂徒不意を撃たれて遂に大に潰走し宿衞兵之を追ひ遂に巨魁李道徹、第一大隊中隊長南萬里、第二大隊中隊長李奎泓及び兵士五名刺客四名を捕縛し直ちに軍房內の監房に送り第一回の審問を開きたりと云ふ

襲撃の目的

彼等は何故に王城を襲撃したるや尙は未だ判然たらざる由なれども彼等の具狀する所に據れば現內閣は實に背逆なる政府にして國事を委すべきにあらず故に我等之に代りて現內閣を仆し更に善良なる政府を組織し以て改革を遂行せんとす云々と唱ふれども是れ表面の口實に過ぎずして其裏面には大なる魂膽の伏在することを疑ひもなき事實なり而して其首謀者は實際李道徹にあらずして外國公使館邊に潜伏する彼の王妃黨と稱せらるゝ十三名のものにはあらざるか而して其參謀官は或は意外の邊に在るならんと想像するもの頗る多く現に韓人間の風說に據れば外人數十名が遂に其後援をして某處に會し居るを認めたりと唱ふるものあり、想ひ起す十數日前王妃黨が某公使と結託し大君主陛下及び王太子殿下を誘出して之を擁して更に親衞隊を解散し舊兵を以て侍衞隊を組織せん若し此目的にして達することを能はざらんか大君主陛下及び王太子殿下を某公使館迄誘拐し更に畫策する所あるべく而して其夜は陛下及び殿下は固より其他味方のものには一同洋服を着せしめ以て之を目標とし其以外のものは誰れ彼れの區別なく悉く誅戮せんとするに在り云々との風說殆ど公然の秘密となり居れり我輩は王妃黨一派が斯る畫策を講ずるは强ち無根のことゝは思はざれども某外人等が之に加はり剩さへその使嗾者たりと云ふに至つては容易に之を信ぜず必ず風說に終ることならんと期したりき然るに數日後の今日に至つて再び奇怪なる事變に接す是れ我輩の不審に堪えざる所なり而して韓人は專ら傳へて曰く以上の風說と同じ筋書を演じたるものなりと我輩は果して然るや否やを信ぜず何れ取調の進行するに連れ其邊の關係は自から明白となるべくその時に及んでは重ねて報道するの機あるべし

內應を約したるもの

今回の事變に接し首尾克く之を擊退したるは實に舊訓練隊の力なりと雖も若し其不意に乘ぜらるゝこともあれば或は大事に至りしやも圖られず幸ひに何の事もなかりしは實に親衞第二大隊長李軫鎬氏の功に歸せざるを得ず是れより先き兩三日前亂徒は李氏に逼り內應せんことを乞ふ李氏陽諾して密に內閣員等にも告げ偵察に怠ることなかりき然れども李氏隊內に於て衆望高し故に亂徒等李氏の陽諾を固く信じて疑はざりし而してその夜に至つて內應を爲さゞるのみか一擊の下直ちに退攘したるは實に拔群の功績と稱せざるを得ず

宿衞將卒の功

亂徒をして闕內を侵犯せしめざりし所以のものは實に宿衞將卒の忠勇に歸す故に大君主陛下は大に之を喜ばせ賜ひ即日詔勅を下し賞與金を賜ひたりと云ふ宿衞將卒たるもの榮譽と云ふべし尤も將卒中賞與金下賜の議を其筋に願出でたるものありとのことなるが其邊は朝鮮人の特性なれば强ち怪しむに足らず而して其詔勅左の如し

宿衞將卒の紀律を恪守し倉黃の際に當りて驚動することなく亂徒を即時に退散せしめたるは其忠勇甚だ嘉尙す茲に詔勅して賞與金を下賜し朕が信愛なる至意を表示す爾等勉勵して朕が望に副へんことを期す

小村公使の參內

事變に先つこと暫時暴徒に與せし舊侍衞隊の曹長一名二等卒一名突然我公使館內に來り公使館員の夢を破りて一封の書翰を出す國分通譯官之を披見せしに則ち暴徒等の通告にして其大要に曰く去月の王城事變に關する親衞隊將卒の逆名は冤の最も甚しきものなり故に今一同王城に入り冤を雪がんと欲す事毫も隣國の交に關することなし依て傍觀此擧を妨ぐることなからんことを乞ふに在りしと云ふ公使館に於ては直に曹長一名を留め兵士を放ち歸へして暴徒に云はしめて曰く汝等暴擧宮闕を侵犯する如きことあれば直に日本兵を繰出して王城を守護せん云々と彼れ愕然として去る茲に於て小村公使は直に參內して大君主陛下の御機嫌を伺はんとし王城門外に至る門扉堅く鎖して入ることを得ず待つこと一時間半漸くにして參內し大君主陛下に謁見し御見舞を申上げたるに大君主陛下は痛く喜ばれしとなん

暴徒の

暴徒等はその當夜京城…
讀んで大義を以て中…
伸暢せんと欲し方今…
に響應し逆黨を討滅…
乙未十月十二日…
又泥峴附近に貼して曰…
大朝鮮鎭衞隊兵卒等…
と一齊に事を起すに…
ることなく兩國開化…
乙未十月十二日…
暴徒等の大部分は侍衞…
衞隊の名を冒すや判知…

各國使臣

我小村公使は午後米國…
て同館內に各國使臣會…
云ふ

李道徹の

今回の巨魁李道徹は元…
主なりしが我兵東徒討…
以て彼の邸を圍ましむ…
兵頻りに之を搜索せし…
いて厚く罪を謝す石盃…
に嚮導たらしむ彼れ汲…
異に功を以て罪を償は…
々彼を信ず彼膽力衆に…
有の人物なりしかば之…
たり彼は五月七日を以…
長に補せられ八月六日…
せり彼は又過般我邦へ…
純氏の親族なりと云ふ

刺客二名

李道徹が李載純氏の親…
捕縛せられたる刺客四…
りと聞く

○韓山…

金玉均氏遺…
金氏の父君…
筆にみそ斯くは書くな…
風にも厭なく牢舍の中…
らず努めしものかな此…
書く者甚だ遺憾なれば…
改革に朴氏と連立ち歸…
僕を勞りつらん、思へば…
年の忠烈も何の因果か…
の中には恙なく日本に…
日は善き風聞もあらん…
秋過ぎ昨年の春雪溶く…
は京城の音信に告げら…
が朝夕べ神に誓て無事…
清國の上海にて閔妃の…
ひ敢なき最期を遂げら…
の噂取りし〲なりとの…
最初は信用せず又郡司…
を立て寧舍の老主を泣…
思ひの外にも風說は實…